

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ハヌマーン		ワークス	UGN支部長A	カヴァー	なし
	オプション		年齢	33	性別	男
覚醒	感染	衝動	破壊	初期侵食率	30	%
出自	経験		邂逅			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	9
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	9
精神	2	0	0			2	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
破壊者	P	N		
穂村 燎	P 遺志	N 悔悟		
“ペーパームーン”	P 連帯感	N 不信任		
“レクラン”	P 信頼	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセプト:サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV(下限値7)							
白熱	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	素手変更/命中0/攻撃力+[LV+5]/G値4/至近							
影走り	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動を行う/離脱可能/シナリオLV回							
炎神の怒り	3	3	メ/リ	-	-	-	-	
効果:	ダイス+[LV+1]個/HP3点消費							
煉獄魔人	3	3	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果:	攻撃力+[LV×3]/↑のHP消費なし							
大裁断	3	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	攻撃力+[LV×3]/素手による白兵攻撃のみ							
炎の理	★	-	メジャー	至近	効果参照	自動	-	
効果:	炎を作り出す							
不燃体	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	炎や寒さからダメージを受けない							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

ゆるゆる無気力おじさん。喫煙者。自分は支部長に向いてないと思っているので支部長らしくない言動をしている。責任感はあるのでやるときはちゃんとやる。

○過去
かつては熱い魂を持った男で、仲間達からも慕われていた。前にいた支部では「穂村 燎」という高校生エージェントの教育係を任されており、同じサラマンダー同士ということもあってよく任務にも共に赴いていた。彼は親にも友達にもオーヴァードであることを隠しており、任務のないときは普通に学校に行って家族の待つ家に帰るといった日常を過ごしており、そんな燎がとても楽しそうに話す日常の話を聞くのがとても楽しかった。しかし、とある任務の最中、暴走したジャームと戦っていたとき、自分の身体の消耗に気づかず、ジャームの最後の大きな攻撃をまともに喰らってしまう状況に陥った。死を覚悟した次の瞬間、燎が目の前に躍り出て自分を庇った。同じように消耗していた燎は、なんとか霧を庇い切ったが重傷を負い、そのまま息を引き取った。
——「ジャームと戦っている最中に教育係である篝を庇って死んだ」なんてこと、非オーヴァードである彼の家族や友人にそのまま伝えるわけにはいかず、彼は交通事故で死んだことにされた。葬儀ではみんなとても悲しんでいたが、彼を死に追い込んだ人間がここにいるというのに、誰も自分を責めることはなかった。責めてくれなかった。遺族に謝ることすら、自分には許されなかった。
UGN側も、霧に直接的な責任があるわけではないので、なにも咎めることはなかったが責任を感じていた彼は同じ支部の仲間たちに合わせる顔がなく自ら逃げるようにして今の支部に移った。
レクランとはそこで知り合った。歳も近く気の合う同僚であり友人として信頼していた。あまり頭の切れる方ではないのでノイマンの彼の頭脳はよく頼りにしていた。
先代支部長の采配ミスでジャームと対峙し、ジャーム化寸前の彼の見舞いに赴き——また、守れなかった、と過去を悔んでいる。

○メモ
過去自分のミスがきっかけで部下を失った自分が、采配ミスで同僚をジャーム化寸前に追い込んだ支部長の後任とか何の冗談だよ、と思っている。そんなこともあり先代には色々思うことがあり自分は支部長に向いてないと思っている。もう誰かの大切な人になりたくない。いざというときには自分なんて見捨てて生きてほしい。人と距離を取りたくて煙草を吸っている。